

### 来年3月、初のスノーボード国際大会開催へ

ロシア・ソチ冬季五輪スノーボード競技の女子パラレル大回転銀メダリスト、竹内智香選手(30)がコーチ兼ネットとして、来年3月、キトウシ森林公園のキャンモア・スキービレッジを会場にスノーボード国際カップ in 東川大会を開くことが決まりました。当日は約150人の選手が賞金を競う予定です。スノーボード競技の本格的な国際マッチレースの大会は道内では初めて



10月18日、役場で開いた同大会実行委員会(会長・松岡市郎町長)の設立委員会で決まりました。開催は、W杯スノーボード競技旭川大会開催後の翌日、来年3月2日。海外トップ選手約60人を招待、加えて日本人選手90人程度の出場を見込んでいます。

キャンモア・スキービレッジのスキー場中腹に約300坪の特設スラロームコース(デュアル方式)を設置。デュアルスタートのパラレル回転競技で賞金を競います。

「今の自分がほかの人から劣っているところがあってもあきらめずに続けてほしい」。2004(平成16)年のアテネ五輪、女子水泳800m競泳金メダリストの元水泳選手、柴田亜衣さん(32)(神奈川県在住)が東川町で子どもたちに夢の実現に向けてエールを送りました。



来町した柴田さん(左)と川股さん(東小の音楽室で)

10月14、15の両日、東川小学校で開いた(公)日本サッカー協会(JFA、東京)主催の「こころのプロジェクト・夢先生(ユメセン)」の先生として来町しました。

夢の教室は4年目。日本プロサッカーチーム、湘南ベルマーレの元サッカー選手、川股要佑さん(29)も一緒に来町し、思いっきり体を動かすゲームで機敏な体づくりを指導しました。柴田さんは、「小さい時の目標は良い記録を出した時にくれるバッジ集めだった」。中学時代の目標は全国大会出場。成績は下から数える程度だった。「高校生の時は3年間で水泳をやめるつもりだった。でももっと速くなれる

### 「小児童、キトウシの森で観察と写真授業

10月7日、第二小学校の3、4年生約20人がキトウシ森林公園で秋の森観察と森の写真撮影をしました。



同小の総合学習の一環。秋の写真撮影と環境授業を組み合わせました。講師はNPO(特定非営利活動)法人ねおすの木村恵巳さん。晩秋のキトウシ山展望閣周辺を散策し、紅葉に染まる里山の風景、コクワの実、ヤマブドウの木の実など、身近にある豊かな自然を観察しました。林の中には、特定外来生物として帰化したオオハングソウ、タンポポモ

### 幼児センターに実の成る木植樹

10月9日、宮坂・しずお経常建設共同企業体忠別川上流床固め工事(小松弘樹所長)作業所の皆さんが、幼児センター(伊藤和代園長)にグミとサクラノボの苗木4本ずつを寄贈、植樹しました。

持参した樹高約2mの苗木をしっかりと植え込みました。園内には実のなる木がいっぱいあるので、今まで以上



川天人峡美瑛線天人峡地区道路決壊事故後の関連復旧工事で、旭川開発建設部石狩川砂防事業の忠別川上流河川床工事を担当しており、地域貢献事業として植樹しました。

### 五輪金メダリスト、柴田亜衣さんが夢にエール

「大」と思っていた。大の記録を破ることに変わった。そして大代表になった。でもすべて予選落ちしてしまい悔しかった。世界大会で決勝まで残りたいと思った。その世界大会とはオリンピック。その時目標がオリンピック出場になった。などと小さな夢と目標を一つずつ克服していくことが大きな夢の実現につながることを強調しました。

### 株主の森植樹、今年も全国から参加

10月21日、東川町の株主の方が参加して、株主の森(東3号北6線)で植樹を行いました。



「水と環境を守る森づくりプロジェクト」として取り組み6年目。ふるさと納税制度で町の株主になった方が各地から72人参加してくれました。用意した千100本の苗木は、野球バット原料となるアオダモ。未明の降雨で肌寒さが残る天候でしたが、アカエゾマツ伐採後の跡地約50アールの広さも約30分間で植樹を終え、「この木がバットになるのは孫の世代だね」などと、約80年後に立派な野球バットに

なることを願いました。埼玉県新座市の高橋陽子さん(37)は、生後5カ月の長女、咲羽ちゃんを抱きながら、ご主人と一緒に親子3人で参加しました。君の椅子クラブで購入した小さな椅子に座っている咲羽ちゃんの写真を撮って、君の椅子写真コンテストに応募。みごと準優勝してこの日表彰も受け、うれしさもひとしおのよう。ふるさと納税で株主となった方は全国3千45人。延べ9千721万9千円(9月末日現在)に達しています。

### 国際交流会館完成、トップ切って台湾留學生が入寮

町の女子学生会館(東町3)の東側に新たな学生寮(東館約千400平方尺、42室)がこのほど完成。10月2日、台湾から来日した長期留學生がトップを切って入寮しました。

鉄筋コンクリート造り3階建て2棟の施設(延べ約3千230平方尺、112室)1室2人で最大224人入寮

可)は、旧女子学生会館側を西館(70室)、新棟を東館と呼称し、施設全体を国際交流会館と改称しました。

旧玄関ロビーと旧管理人室スペースは、新たに渡り廊下と交流サロンに改装しました。今後は町内の専門学校に通う学生と日本語を学ぶために来日した海外留學生、研修生の宿舎と交流の



場として活用します。